

佐賀大学医学部附属病院をご利用の皆様、地域医療関係者の皆様

この度、本院の病棟で患者様3名及び職員2名が新型コロナウイルス感染症に感染し、院内クラスターとなったことが令和4年1月28日に判明しました。

本院としましてはPCR検査の段階から佐賀中部保健福祉事務所に相談し、院内で陽性者が発生した直後から、病院長及び新型コロナウイルス感染対策本部長をはじめとする関係者で協議を重ね、当該保険福祉事務所の指導の下で緊急で対応して参りました。

具体的には、以下の対応を行いました。

新型コロナウイルス感染症と判明した患者様と、同病棟の患者様及び同病棟に勤務する医師、看護師、その他の医療従事者等、接触があったと思われる全ての者を特定し、速やかにPCR検査を実施し、令和4年1月29日現在濃厚接触者を含む全ての接触者、患者様22名、職員等84名について全員の陰性を確認しました。陰性と判定された後に発症する場合がございますので、感冒様症状を認めた数名に対して再度PCR検査を実施し陰性を確認しました。また本日までに新たに感冒様症状を訴えた患者様、職員はおらず、今回のクラスターは5名で収束に向かっていると考えております。

さらに新たな感染拡大を防ぐために、当該病棟においては新規入院を一旦中止し、手術も延期致しました。

また、当院の職員には以下の項目を徹底するよう改めて周知徹底を図っております。

- 体調管理を徹底して行うこと。
- 感冒様症状が出現した場合には、診療科長、部門長に報告すること。
- 報告を受けた診療科長、部門長は感染制御部に連絡すること。

皆様にはご心配とご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び致します。

引き続き、佐賀県等関係機関及び佐賀中部保健福祉事務所と連携を図りながら職員が一丸となり、適切な対応を行って参ります。

今回クラスターが発生した病棟は閉鎖や縮小は行っておりませんが、消毒等を行い、細心の注意を払って運営を行っており、現在入院され療養・治療をされている皆様方に新たに感染の危険が及ぶ可能性は低いと判断しております。

【今後の対応】

患者様へ適切な医療を安全に提供することを第一に考え、県外移動や会食などのリスクの高い行動を自粛し、医療従事者として引き続き自覚ある行動を取るよう、職員に周知徹底して参ります。

佐賀大学医学部附属病院長
山下 秀一